

曾て九個の自主的組織体に分属せる九牛の同志は茲に新に存る血盟を誓ひ勇躍して新軌線に就
けしのである。

顧みれば吾等日本港務従業員組合聯盟を組織してより三年有半、果敢なる抗争を通じて奮し
たるその実績は、港務労働者の期許を裏切らず、没落期資本主義の逆襲の裡に、際立つる光芒を
放つことを私かに喜びとするものであるが、港務事業に殘存せる封建的諸要素を一刻も速に
驅逐しつゝ、或る近代的大資本、金融資本の最近の動向を巨細に検討すると、不可避的なる彼等
の全面的攻勢に對して港務労働者の生活権を防衛し、進んでその生活内容を向上せしむるがた
めには、外に伺つては未組織大衆を吾等の陣營に組織化すると共に、内に向つては即時鋼鐵の
如き統制と訓練とを確立する以外に途なきことを確信する

聯盟体を單一組合に改組せんとする吾等の熱意は一にこの要望を枢軸として実践化せらるるも
のであつて、断然も非常時を以て呼稱せらるる故、無産階級解放の運動が動まずればブルジョ
ア階級下はその方便を失はんとする危機に際し、吾等の宿望を遂げて、茲に輝き第一歩を踏
み出せる吾等は、対立階級の凡中る迫害と弾圧を断ずとして粉砕すべき自熱的階級性を高調し
つゝ、新陣地を死守し、健全なる労働組合主義の大旗の下に全港務労働者の生活権の擁護と伸張
とに邁進することを廣く中外に誓明するものである

昭和八年九月二十二日

日本港務従業員組合結成大會